

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:令和6年2月21日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスフロル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえ、改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	・人数が多い場合2階を使うなど環境を工夫している	・階段が急であるため、職員の立ち位置など安全管理に努めていく
	2	職員の配置数は適切である	4			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	2	・区切りを意識しているが、カーテンの利用などで危険性があることがあった	・子どもたちの導線を意識し、リスクを回避できるよう職員の立ち位置などを安全管理に努めていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	・適宜、活動場所を分けるなどの対応を行っている	・安全管理に努めつつ、物品の配置換えなど活動に適する環境作りに取り組んでいく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		・朝礼時に共有している	・今後は休暇の職員との情報共有方法を検討していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・ご意見等を共有し、業務改善につなげている	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		・職員間での情報共有、周知徹底に努めていく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		・第三者による外部評価を受ける機会を検討していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		・さまざまな研修機会を職員間で共有している	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		・標準化されたアセスメントツールの検討していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		・月案の立案を複数の職員で実施している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		・季節の行事や新しい活動を積極的に取り入れている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		・朝礼時に前回利用時の様子などの情報共有、その日の役割分担を確認している	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		・翌日の朝礼時に実施している ・集団活動記録の記載にて共有している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	2	・相談支援事業所を介して連携ができていますが、他の外部連携は乏しい	・外部連携機関の情報収集など、職員の知識向上に努める
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3			・個別支援計画や保護者との面談などを通して各機関と情報共有できるよう努めている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	3	・利用者により面談や見学に参加できているが全体的ではない	・個別支援計画や保護者との面談などを通して各機関と情報共有できるよう努めている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		・LITALICOなど外部研修を受講している	・支援者会議などで情報共有を図っていくとともに、外部事業所での研修の場を活用していく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		・事業所としての交流はないが、所属している児が多いため必要性が低いと考えている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	3	・担当が決まっておりその報告を受けている	・職員間での情報共有や参加方法について検討していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		・送迎時に家族と話すようにしています	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		4	・ペアトレではないが、送迎時に対応方法の提案などを行っている	・定期開催などニーズとして強く挙げられていないため、現状の対応にて引き続き実施していく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		・その都度内容確認を保護者と実施している	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			個人情報等の観点や要望を踏まえ今後の実施については検討していきたい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・送迎時の対応で解決できない場合には都度面談の案内をしている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		・個人情報の観点から踏まえ、開催方法など、検討していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		・その都度、面談時間を設け対応している	・年度初めなどに面談や見学ができる旨を保護者に周知していく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	・月ごとの予定表にて周知するとともに、ブログなどにて発信している	・引き続き取り組んでいく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	2	2		・情報管理方法について職員間で確認し、自己点検に努めていく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	・近所の方々は挨拶はしますが開かれているとは言えないです	・個人情報の観点から希望されない保護者様もいるため実施に関しては検討していない
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	2		・職員間では共有できている ・今後は保護者様や利用者様への共有方法を検討していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		・定期的に個人情報を更新するとともに、服薬などについて都度確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	・保護者に確認し、個別におやつセットを用意している	・保護者様からの情報共有に基づいて実施しており、引き続き取り組んでいく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2		・職員間での情報共有はできているが、事例集の作成に至っていない部分があるため事例集への記載を徹底していく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。